

2026年10月28日

日清製粉グループ 第2四半期(中間期)連結決算、通期連結業績予想

当中間期は増収、中東情勢影響によるコスト上昇をカバーし、営業利益は増益。
最終利益は前期減損損失計上の反動もあり大幅増益となり、通期業績予想達成に向け、引き続き各種施策を進めていく。
株主還元の更なる充実のため、当初公表通り前期より5円増額の配当を予定。
さらに200億円を上限とする自己株式の取得を決定。

[2027年3月期中間連結会計期間決算]

売 上 高	4,417億56百万円	(前年同期比 102.4%)
営 業 利 益	228億23百万円	(前年同期比 100.8%)
経 常 利 益	240億36百万円	(前年同期比 97.0%)
親会社株主に帰属する 中間純利益	181億54百万円	(前年同期比 175.8%)

(株)日清製粉グループ本社(取締役社長:永木 裕)の2027年3月期中間連結会計期間の業績につきましては、売上高は、海外製粉事業における米国の生産体制強化による出荷増及び為替換算の影響等により4,417億56百万円(前年同期比102.4%)となりました。利益面では、各事業において中東情勢影響によるコスト上昇及び天候不順を主因とした中食・惣菜事業の販売減はあったものの、海外製粉事業における出荷増及び為替換算の影響や酵母・健康・バイオ事業における出荷増等により、営業利益は228億23百万円(前年同期比100.8%)、経常利益は、持分法による投資利益の減少等により、240億36百万円(前年同期比97.0%)となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、政策保有株式を予定通り縮減したこと及び前期のインドイースト事業における減損損失計上の反動等により、181億54百万円(前年同期比175.8%)となりました。

[2027年3月期通期連結業績予想]

2027年3月期の連結業績予想につきましては、為替レートが当初予想より円安基調であることや小麦相場が高騰していること等を踏まえ、売上高を9,000億円(前期比104.0%)に修正しております。なお、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、本年5月14日に公表した業績予想を据え置いております。また、2027年3月期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向を2027年3月期までに「50%目安(非経常的な特殊要因による損益を除外)」とする基本方針のもと、当初の予定通り前期より5円増額の1株当たり年間65円を予定しております。

[200億円を上限とする自己株式の取得を決定]

株主還元の更なる充実と資本効率の向上、経営環境を踏まえた資本政策の遂行のため、株式の取得価額の総額200億円、株式の取得総数1,400万株(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合5.00%)を上限とする自己株式の取得(信託方式による市場買付による)を行います。詳細につきましては、本日公表の「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」をご参照ください。

以 上